

2018年4月号



一般社団法人
北海道歯科医師会

北海道歯科医師会HP <https://www.hokkaido-shikaishikai.com>

Hokkaido Dental Association “Doushikai Tsushin” D.NEWS

千歳

CHITOSE

千歯会主催学術講演会

日時：平成30年2月8日(木)

午後7時より

場所：エニケンビル 3階 会議室

標記講演会が行われ、今回は医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院および医療法人社団 北楡会 札幌北ビル歯科クリニックの野谷健治 先生をお招きして、演題「欠損による咬合崩壊を起こさないために！何時、どのように介入すべきか？：パーシャルデンチャーの臨床」と題して講演いただいた。

講演では、最初に高齢社会に伴い、今後パーシャルデンチャー（PD）による欠損補綴が増加することが予想され、「歯の

欠損による咬合崩壊への対応＝咬合の再建」が重要であり、PDとは「咬合が損傷した歯列に対し咬合を再建するために機能的動揺を最少となるよう構築された可撤性の有床義歯（リジッドサポート）」であるとお話があった後、咬合再建が必要であるのは、①下顎位の不安定・偏位・喪失、②下顎運動の歪曲・不正であり、欠損による咬合崩壊の抑制を目的に積極的に欠損補綴を介入すべきなのは、宮地の咬合三角エリアⅡであるとの説明があった。

次いで欠損歯列の診断について述べられ、模型や口腔内を見ただけでは欠損歯列の抱える問題や治療のテーマを見い出すことは困難であること、Eichnerの分類および宮地の咬合三角について、咬合欠陥（崩壊）レベル進行の指標として、①臼歯部の咬合支持減少、②臼歯部にすれ違い咬合の傾向、③下顎位や下顎運動の

変化、④上顎前歯に応力集中があるとのことであった。

次に、機能的動揺の最少の部分床義歯＝リジッドサポート設計（様式）についての詳しい説明として、リジッドサポート義歯における構成要素の要件について、主に①支台装置、②連結装置について述べられた後、リジッドサポート義歯の設計手順について実際の臨床例を紹介され説明していただいた。

次いで、①初めての義歯：Eichnerの分類B1症例は装着中止例が多いこと（中止例：約30%、中止期間：3か月以内）、そして我々歯科医師側にもその原因の一因があること、②リスクエリア症例：Eichnerの分類B2およびB3について、③ハイリスク症例：Eichnerの分類B4について述べられ、最後に「欠損による咬合崩壊を起こさないためのパーシャルデンチャーの治療」として、①併発している

咬合問題を解決する、②欠損歯列の分析・診断を行う、③可及的に「リジッドサポート」設計とする（適切な構造設計・リスクエリアからハイリスクエリア症例になるに従い、積極的に補綴的介入して対応する・必要な私費診療）、④インプラント支持のパーシャルデンチャーの設計も検討することが重要であるとの説明があり、千歯会会員との質疑応答ののち講演会は終了となった。

今回の講演は、欠損補綴に対してとても気の引き締まる思いを感じ、また明日からの臨床においてもとても有意義な講演会となった。（井口正晶 記）



旭川

ASAHIKAWA

平成29年度 旭川歯科学院専門学校

第53回生 戴帽式

日時：平成30年2月3日(土)

午後4時より

場所：旭川市民文化会館 小ホール

本校第2学年（53回生）の戴帽式が挙行された。

当日は、本校の母体でもある旭川歯科医師会および本校同窓会長やその他の来賓の方々も多数出席いただき、とても厳かな雰囲気の中、学生は気持ちを引き締めて今後学ぶ臨床実習に向けての強い決



意も示された。

戴帽の儀では、学校長より学生一人ひとりに戴帽され、各自身の引き締まる思いで臨んでいた。

その後、歯科医師会長からの祝辞、学校長からの式辞、同窓会長からの祝辞など沢山の激励を込めたメッセージが寄せられた。

学生代表より、誓いの言葉や1年生か

らの花束贈呈も行われ、学生間でのつながりもとても良く感じられた。

今後、2年生は臨床実習にて、歯科臨床の基礎および応用をしっかりと学んでいく。

日に日にたくましさを身に付け、厳しい臨床実習をがんばってもらいたいと思う。（辻 任 記）

旭川歯科医師会スキー・スノーボード講習会

日時：平成30年2月18日(日)

午前10時より

場所：ぴっぷスキー場

標記講習会が行われ、当日は雲一つ無い、まさに絶好のスキー日和であり、総勢59名の参加となった。

小さなお子さんからベテランの先生まで30名が講習を受け、それぞれ技量に合



わせて、ぴっぷスキー学校のインストラクター11名が丁寧に指導してくれた。

2時間の講習の後にロッジにて皆でおにぎりや豚汁を食べ、お楽しみ抽選会で大いに盛り上がり医院間の親睦を深めた。

お手伝いいただいた厚生部の先生方、旭歯会員の矢口先生はじめインストラクターの方々大変ありがとうございました。（高垣謙二 記）

小樽

OTARU

会員学術発表会

日時：平成30年2月17日(土)

午後3時より

場所：小樽市歯科医師会館

今年度の標記発表会は前年を上回る5題の演題申し込みがあり、開催された。

演題・演者は、

- ①「地域包括ケアシステムについて」 加藤友一 先生
 - ②「臼歯部の咬合崩壊を伴った過蓋咬合症例の経過」 高村佳明 先生
 - ③「口腔内スキャナーの有効活用法について」 上浦庸司 先生
 - ④「総義歯の機能印象採得法について～ティッシュコンディショニングを用いて～」 館 宏 先生
 - ⑤「MTFの重要性について」 坂口友朗 先生
- の5名で、地域医療や光学印象、小児か

ら高齢者の補綴治療さらには実技のデモンストレーションもあり、多岐にわたる内容であった。紙面の都合で各演題のabstractや勘所を記載できないのが残念ではあるが、各先生方はそれぞれの経験・持ち味を活かした発表で、月曜からの診療に実践できる非常に充実した学術発表会であった。

開催の準備にご尽力された学術理事の佐藤和紀 先生、同委員長の佐藤友美 先生に心より感謝申し上げます。

（山本栄治 記）



札幌

SAPPORO

平成30年 新年互礼会

日時：平成30年1月6日(土)

午後4時より

場所：札幌パークホテル

— 会員相互の親睦のなか新春を祝う — 恒例の新年互礼会が、小雪の降りしきるなか多数の来賓と会員が出席し開催された。尾崎副会長の開会の辞に続き、山田会長より年頭の挨拶があった。

続いて、来賓の札幌市 秋元克広 市長、札幌市医師会 松家治道 会長、札幌薬剤師会 柳瀬義博 会長、北海道歯科医師会 藤田

一雄 会長より挨拶をいただいた。来賓紹介の後、平成29年度終身会員（22名）の紹介がされ、当日、出席された三好安典 先生より挨拶をいただいた。続いて平成29年新入会員（11名）が紹介された。当日列席された6名の新入会員の先生方が登壇し、一人ひとりが自己紹介を行なった。

祝杯は北海道保険医会会長 加藤康夫 先生のご発声と共に唱和され開宴となった。



会場は例年同様の「着席ビュッフェスタイル」で、ご馳走に舌鼓を打ちながら新年の挨拶を交わす和やかな談笑の輪が広がっていた。

宴もたけなわのころ、今年数えで77歳の喜寿を迎えられる佐藤文彦 先生による乾杯が拍手喝采のなか行われ、諸副会長の閉会の辞でお開きとなった。

平成29年度 税務講習会

日時：平成30年2月1日(木)

午後7時より

場所：札幌歯科医師会館 2階会議室

標記講習会が開催され、山田会長挨拶の後、札幌中税務署記帳指導推進官の岩田昌子 氏から「平成29年分所得税確定申告の留意点について」と題し、平成29年度税制改正点を中心に、特別措置法、医

療費控除の申告方法、セルフメディケーション税制、最近話題の仮想通貨に関する所得計算方法等の説明があった。

続いて、当会顧問税理士の西川英幸 先生より「確定申告「知っておきたいこと」と題し、上場株式などに係る配当所得の確定申告方法や雇用促進税制による雇用者給与等支給額が増加した場合の税額控除する節税の方法など4つの事項について説明があった。

約1時間半ではあったが、細かいポイントを押さえた大変参考になる有意義な講習会になった。（尾崎純一 記）



十勝

TOKACHI

平成29年度 市町村歯科医会連絡協議会
日時：平成30年2月3日(土)
午後4時から午後6時
場所：十勝歯科医師会館 2階 講堂



十勝歯科医師会執行部と十勝圏の市町村歯科医会幹事による連絡協議会が開催された。大滝会長より今年度の十勝歯科医師会事業総括と次年度の事業概要説明で始まった。

今年度は十勝歯科医師会設立70周年記念事業が行われ、特に記念講演会ではオーラルフレイルをテーマとし、地域住民にも理解していただける良い講演会が開催できたと報告された。また次年度に向けて行政、多職種とともに地域包括ケアを推進していく考えを示した。執行部担当理事より歯ブラシブリグード事業、医科歯科連携事業についても各市町村歯科医会に協力と理解を求めた。

各市町村からの報告で、成人歯科健診における地域ごとの実施方法の違いが明確になった。また地域包括ケアを推進する上で、多職種連携地域ケア会議が各地域で進捗状況に温度差があることが認識された。多岐にわたる意見が活発に出され、各市町村歯科医会及び十勝歯科医師会執行部双方にとって、良き情報収集、意見

交換の場となった。(松澤直昭 記)
緊急時救急薬品の使用法研修会
題目：「歯科診療の偶発症への対応
～こんな時、こんな場合～」
講師：木村 幸文 先生
(北海道大学歯学部 歯科麻酔科)
日時：平成30年2月9日(金)
午後8時より
場所：十勝歯科医師会館 1階 診療室

北大歯学部歯科麻酔科の木村幸文 先生をお招きし、標記研修会が行われた。まず初めに、実際に起こった過去の医療事故の事例と医療事故調査制度についての説明があり、また、日常の歯科診療には薬物ショック・誤嚥による窒息・局麻中毒など偶発症の危険があることを示された。術前合併症が無くても重篤なショックや心停止を起こした事例もあり、緊急時の適切な処置と普段からの準備が大切だと改めて再認識した。

また、血圧計・パルスオキシメーター・



心電図などのモニターの取り扱いや、救急薬剤セットの薬品説明や使用方法などについて詳しくお話いただいた。

最後に、どんな偶発症の起こる可能性があるか?起こさないためにはどうするか?起きた時はどうするか?…と、予め対応をシミュレーションしておくことが肝要だと締めくくられた。当日は予定人数を超えた31名もの参加者があり、会員の関心の高さが伺われた。(南館直人 記)

市民公開講座
「お口のケアが全身をまもる
～ご存知ですか?
歯周病と糖尿病の関係～」
講演Ⅰ：健康寿命を延ばすための糖尿病予防
ー生活習慣病の傾向と対策ー

講師：斎藤重幸 先生(札幌医科大学大学院保健医療学研究科 基礎臨床医療科学臨床病態内科学分野 教授)
講演Ⅱ：健康寿命を延ばすために美味しいものを食べましょう
ー生活習慣病対策は歯周病の予防からー

講師：長澤敏行 先生(北海道医療大学歯学部 臨床教育管理運営分野 教授)
日時：平成30年2月10日(土)
午後2時から午後4時
場所：とかちプラザ 2階 視聴覚室

歯周病と糖尿病の関係性や生活習慣病の発症・重症化予防啓発を目的とした道歯主催の標記市民公開講座が行われた。

第一部では札幌医科大学の斎藤先生より、好ましくない生活習慣とそれに起因する生活習慣病について説明があった。心疾患や脳血管疾患の原因となる動脈硬化の危険因子として喫煙や肥満、高血圧とともに糖尿病があり、糖尿病患者およびその予備軍は年々増え続けているとのこと。また、糖尿病予防として年1回の健診受診、体調異変自覚時の早期受診、保健指導の積極的利用を提示された。



第二部では北海道医療大学の長澤先生が歯科の立場から歯肉炎・歯周病の解説を絡めた歯周病治療による糖尿病の改善について解説され、「治療のみでなく日常のケアとして定期的に歯科受診の習慣をつけてください」と話された。我々医療関係者はもちろん、一般市民の方々にも分かりやすい講演内容で、会場内では熱心にメモを取る姿も多く見受けられた。

(南館直人 記)

囲碁・将棋部合宿

日時：平成30年2月17日(土)
午後4時より
場所：ふく井ホテル



標記合宿が行われ、懇親会に先がけ、午後4時より対局が行われた。

その後、会場を移し、午後6時30分より、大滝達哉 会長の挨拶に続き、森 政成 部長の発声で懇親会はスタート。おいしい料理とお酒とともに、思い思いに楽しく語り合った。

そして、再度会場を移し対局再開。ほろ酔いの中、団体戦を行い無事対局終了。

最後に記念写真を撮影して、お開きとなった。(菱沼直弘 記)

後志

SHIRIBESHI

スキー部ポールトレーニング
日時：平成30年2月12日(月・振替休日)
午前9時から午後2時
場所：IWANAI RESORT

参加者：黒田準一、井筒 徹、岡崎有志、土方敬久、山田一晴、中村 衛

3月10日(土)に開催される北海道歯科医師スキー大会に向け、後歯会スキー部はポールトレーニングを行なった。気温マイナス11℃の強風の寒い中、岩内スキー少年団と合同で午前9時から午後2時まで大回転の練習をした。降り積もる雪の中、コース整備に時間がかかったが皆、怪我なく練習できた。



しかし、帰る頃には皆、太腿がパンパンだった。(山田一晴 記)

平成29年度 ボウリング部 2月例会
日時：平成30年2月13日(火)

午後8時から午後9時30分
場所：ファミリーボウル岩内

今大会は長澤先生が幹事として賞品を用意し、大阪はHORAIの豚まん、餃子、焼売、イカ焼きとなった。前回に引き続き長澤先生が連覇!1回戦井筒先生に敗れたが、ワイルドカードで決勝戦に進み、井筒先生に勝利!



来月は何を用意するのか!初の3連覇なのか! (伊藤 純 記)

	①	②	③	HDCP
優勝	長澤	171	204	213 48→41
準優勝	井筒	182	196	207 56→52
1位	伊藤	262	178	188 42→34
2位	青山	194	174	208 34→34
3位	黒田	223	195	188 35→30
4位	土方	216	204	218 46→41

B B 山田 176 175 212 54→54
B M 土方妻 192 177 190 66→65

HDCPは先月までの平均Aveと今回のAveとで平均Aveを出し200からの80%で算出した。

平成29年度 第6回定例理事会

日時：平成30年2月22日(木)
午後7時30分より

場所：倶知安町 ホテル第一会館



各理事報告のあと、平成30年度事業計画(案)及び、予算(案)に関して確認し、全会一致で承認された。(五十嵐 豊 記)

空知

SORACHI

税務講習会
日時：平成30年2月2日(金)
午後7時より
場所：滝川ホテル三浦華園

講師：行政書士佐久間事務所
特定社会保険労務士 小林博美 先生
「歯科医院における助成金のポイント解説」と題して講演いただいた。

働き方改革に取り組み、制度導入・実施・成果を出した事業主を応援するための施策としての「雇用関係」助成金について解説された。

非正規雇用の処遇改善、女性の活躍、ワークバランス、賃金引き上げと生産性

向上のためのさまざまな助成金について説明された。また、助成金をもらうために必要な労務管理について解説され、労働契約(労働契約書、就業規則)のあり方、労働時間の把握、給与・割増賃金など正しく運用されているかをチェックすることを推奨された。

今後の歯科クリニック成長戦略を知る大変有意義な講演会となった。

(小西 亮 記)



岩見沢

IWAMIZAWA

栗山方面会
日時：平成30年2月16日(金)
午後7時より
場所：ホテル パラダイスヒルズ

岩見沢歯科医師会は、岩見沢方面会61名、栗山方面会25名、夕張方面会5名、三笠方面会2名、その他勤務会員・登録会員で成り立っている。年1度開催される栗山方面会に、今年も三役4名が方面会の協議終了後に出席し、倉増会長挨拶、谷本副会長の乾杯、筆者が会務報告を行い、懇親会にて親睦を深めた。

栗山方面会の先生方とは、お酒を一緒

に飲むことが少ないので、このような機会は貴重である。清水保険部部長から診療報酬改定の概要について話があり、野崎副会長から岩歯会の将来について検討していること、来年予定している終身会員年齢引上げのこと等について言及し、「いろいろな会でまた皆さんとお話したい」と挨拶し締めくくった。(久恒泰宏 記)



苫小牧

TOMAKOMAI

苫歯訪問診療説明会

日時：平成29年12月20日(水)

午後7時30分より

場所：苫小牧市医師会館 2階 研修室2



苫小牧市の人口が先日の調査において釧路を抜いて道内第4位になったと報道されているが、他の地域同様高齢化の一途をたどっており、今後訪問看護のニーズはますます高まっていくと予想される。

平成29年4月には苫歯会事務所も入所している苫小牧市医師会館に「とまこまい医療介護連携センター」が開設され、歯科治療においても訪問診療が必要な状況が刻一刻と迫っていると感じられる。そこで、苫小牧市福祉部介護福祉課の山

本主幹と、とまこまい医療介護連携センターの堀田センター長を招き、苫小牧市における医療・介護連携の現状および今後の展望について説明いただいた。

また、苫歯会理事から今後の苫歯会としての訪問診療に対する対応方針、介護保険・請求の基本と実際、苫歯会で保有するポータブルユニットの使用方法などが会員へ説明された。(関 俊也 記)

平成29年度会員受賞者表彰式

日時：平成30年1月20日(土)

午後5時より

場所：グランドホテルニュー王子 2階

若草の間

本年度、道

歯、北海道、

苫小牧市から

表彰を受けた

会員に対し、

苫歯会として

も表彰を行う

べく標記受賞

者表彰式が執

行行われた。

北海道歯科

医師会功労会

員顕彰を金丸

順太郎 先生、



森田健三 先生の両名が、北海道歯科医師会終身会員として関 俊夫 先生が、苫小牧市自治貢献者表彰を上田修市 先生、山崎次之 先生の両名が、北海道学校保健功労者表彰を縣 潔 先生、石澤和彦 先生、加藤政伸 先生、榊原佳明 先生、嶋根竜人 先生、清水忠明 先生、高松 謙 先生、橘昭夫 先生、山村雅彦 先生、柏村康治 先生、今野 博 先生がそれぞれ受賞された。

牛丸苫歯会会長より各受賞者の功績を紹介するとともに、苫歯会より記念品が手渡された。受賞された先生方、この度はおめでとうございます。

(関 俊也 記)

平成30年新年交礼会

日時：平成30年1月20日(土)

午後6時より

場所：グランドホテルニュー王子 2階

若草の間

平成30年を無事迎えることができ、新年交礼会が今年も来賓をお迎えして華やかに開催された。

木村苫歯会副会長による開会の辞に続き、牛丸苫歯会会長による新年の挨拶、来賓から石井苫小牧保健所所長、岩倉苫小牧市長、厚真町から近藤副町長、衆議院議員 堀井 学 先生、山岡達丸 先生に挨拶いただいた。

恒例の鏡開きに続き、吉鶴苫小牧市医師会副会長の乾杯で祝宴がスタートとなった。テーブルスピーチやビンゴゲームなども挟みながら、各々しばし楽しい時間を過ごすことができた。祝宴最後には大倉苫小牧薬剤師会会長より万歳三唱が行われ、今年70周年を迎えることとなった苫歯会のますますの発展を祈念し、新しい1年のスタートを切ることとなった。

(関 俊也 記)



北見

KITAMI

特定保健指導

日時：平成30年2月3日(土)

午後1時より

場所：北見歯科医師会館



平成20年よりメタボリックシンドローム

ムに着眼した特定健診、特定保健指導が実施されている。すでに行われている特定健診の結果により「健康な方または医師から投薬を受けていて保健指導の対象にならない方」と、「特定保健指導が必要な方」に判別され、「特定保健指導が必要な方」はさらに「動機付け支援」、「積極的支援」の対象になる方に分けられ、三段階に階層化されている。

私も「動機付け支援」に該当し、当日保健師による個別面談形式によって現在の食生活、運動習慣等における問題点を考慮しながら、行動目標の設定をサポートしていただいた。(丸子修史 記)

歯科医療従事者認知症対応力向上研修セミナー

日時：平成30年2月18日(日)

午後2時より

場所：ホテル黒部

標記セミナーが行われ、北海道歯科医師会 沖津正尚 理事より講演があった。前半は、認知症とはどのような病気かについて説明があり、脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症が三大認知症と言われているそうだ。後半は、実際にどのように認知症高齢者に対して治療が行われているか症例を踏まえて説明いただいた。対応のポイントとして、○話す技術、聴く技術(ゆっくりと優しい口調で話す、同じ高さの目線で話す、遠くや後ろから話しかけない)○行動面での技術(周り、後ろで大きな音を出さない、騒がしくない環境を作る)○観察のポイント(いつもと様子・行動が違うときは合併症に気をつける、動き、



表情や言葉の変化に注意、他のスタッフが関わっているときの反応を観察する)ことが大切だと説明いただいた。



今後起こりうる高齢者社会において、我々歯科医も積極的に認知症について知る必要性があり対応しなければならないと痛切に感じた。(丸子修史 記)

室蘭

MURORAN

第2回パレلسキークラブバスツアー

日時：平成30年1月28日(日)

第3回パレلسキークラブバスツアー

日時：平成30年2月11日(日)

場所：ルスツリゾート

標記日程において、室歯のスキー同好会であるパレلسキークラブの第2回バスツアーが催された。1月後半に入って、大寒波に見舞われた中でのツアーとなり悪天候も予想されたが、気温こそマイナス13度という寒さの中であったが、比較的恵まれたコンディションでスキーを楽しむことができた。

今回は、定例メンバーに加えて小学生も交じり、当会会員の由川先生、室蘭スキー連盟指導員 大長一政 先生が子どもたちを交代しながら指導にあたった。帰るころには、大人でも手こずるような急斜面を難なく滑り降り「もう1回!」という事態に、我々は子どもの習得能力と先生方の指導力の高さに驚いた。帰りのバスでは、子どもたちと今日の滑りについて語り合い、次回はもっと上達しようと大いに盛り上がった。

第3回目のバスツアーは、参加者12名と少な目ではあったが、今回も前回に引き続いて穴戸先生がご家族で参加され、バスの中はかわいらしいお子様たちのお陰もあり、終始和やかで楽しい雰囲気だった。

当日のゲレンデコンディションは、あ



まり良くなく、風こそ無いものの山頂から約3分の1はガスがかかっており、視界が良くなかった。途中視界の悪さではぐれてしまう場面もあったが、昼食時までは全員合流でき、悪コンディションながらも楽しく安全に滑走を楽しめたのはクラブ会員の技術の高さと日頃から指導いただいているパレلسキークラブ会長 由川先生、室蘭スキー連盟 大長先生のご指導の賜物と痛感した。

帰りのバスの中も終始和やかに酒を酌み交わし、クラブ会員の親交を深めなが

らの帰宅となった。(森 勝彦 記)

糖尿病教室歯科口腔教育支援

日時：平成30年2月13日(火)

午前10時から午前10時40分

場所：伊達市 社会医療法人慈恵会 聖ヶ丘病院

伊達市にある社会医療法人慈恵会 聖ヶ丘病院にて、道歯による糖尿病教室歯科口腔教育支援が行われた。この事業は、糖尿病教室を実施している歯科標榜のない医科医療機関に対して歯科医師・歯科衛生士を派遣して歯科口腔保健教育の支援を行うものである。

聖ヶ丘病院では今回で2回目の開催となった。当会会員が講師となって講演し、外来患者、入院患者、内科医、看護師など30名程度が参加し、糖尿病についての話を聞いていた。糖尿病と歯周病の関係や口腔の清掃方法などの説明に参加者は真剣に聞き入っていた。

講演の後、同行していた衛生士によるブラッシング指導が行われた。最後に質疑応答があり、「どのような歯ブラシが良いのか」、「糖尿病患者の口腔ケアは歯科医院に行けばしてもらえるのか」など活発に質問がだされた。講演は予定通り30分で終了したが、質問が多く10分ほど予定を超えて終了した。この他に室歯管内では2回の教育支援が行われた。

(畠山雄一 記)

医療管理講習会

日時：平成30年2月24日(土)

午後3時から午後4時30分

場所：室蘭歯科医師会館

標記講習会が開催され、講師に札幌リアル法律事務所 関口和矢 弁護士をお招き

して「医療事故発生時にどう対応すべきか」と題し、講演いただいた。

医療事故やクレームが発生した時、どのように対応すべきか、どうすればトラブルが大きくなりえないかなど実際の事案を紹介しながら解説していただいた。根管の治療におけるトラブル、下顎智歯抜歯におけるトラブルなど日常の診療において遭遇するであろう話に参加した先生方は真剣に聞き入っていた。トラブルが発生したときは初動が大切であること、誤った対応をするとトラブルがさらに悪化すること、対応しきれないときは専門家である弁護士に相談することなど、もしもの時の対処の仕方を丁寧に話いただき理解を深めることができた。

質疑応答では活発に質問がだされた。講演終了後は関口先生を交え、懇親会が開かれ、講習会では聞けなかった話なども聞けて、大変有意義な懇親会となった。

(畠山雄一 記)



函館

HAKODATE

平成29年度 医療管理講習会
日時：平成30年2月17日(土)
場所：函館歯科医師会館 2階 第一講堂



道歯主催の標記講習会が開催され、札幌榎心会病院副院長・札幌医科大学臨床教授の長谷守先生より「歯科医院としての急変対応」と題し、『心臓発作・心停止』時の適切な対応として、上半身に未経験の強い不快感を感じたら、躊躇なく救急車を呼ぶことが大事であり、発症後90分以内に適切な治療が必要です、と早期発見・早期介入の重要性について説明いただいた。

また、胸痛を訴えて意識消失する『心停止』がおきた場合は多くの場合『心筋梗塞』が疑われるので、救急車が来るま

で心臓マッサージを行うことが重要で、その後の社会復帰率が心臓マッサージを行わなかった群と比較すると優位であったと報告された。最近では、人工呼吸は行わず、心臓マッサージのみを行うようだ。さらに心臓発作によるトラブルを防ぐためには「胸がもやもやする」「胸が締め付けられる」「動くとなんとなく苦しくなる」このような警告症状がおきた場合はできるだけ早く専門医の診察が必要であると話があった。

続いて、山下史生法律事務所 弁護士 山下史生 先生より「歯科医院における医療事故調査制度について」と題して、予期せぬ死亡事故が発生した場合の医療事故調査の流れについて説明いただいた。予期せぬ死亡事故平成27年10月から平成28年12月の期間における、予期せぬ死亡事故は全487件で、そのうち歯科は5件だった。

また、北海道歯科医師会常務理事の大橋 聖 先生より「患者急変時の歯科医院対応について」と題し、スタッフの事前対応（歯科医師の補助、他の院内患者への対応、カルテへの記録係、連絡係等）を常日頃から確認しておき、救急車が患者を搬送する際は院長が同乗し、病院で起きたことを早期にお話することが患者の家族に対しての配慮になると説明された。

患者の急変はいつ起きるかわかりません。そのような場合にも冷静に対応できるよう、常日頃からスタッフとシミュレーショ

ンして準備しておくことが大事だと痛感させられた。（川村曜補 記）

平成29年度 在宅歯科医療連携室整備事業 在宅歯科医療連携推進委員会
日時：平成30年2月23日(金)
午後7時より
場所：函館歯科医師会館 2階 第一講堂

標記委員会が開催され、報告事項として、平成29年度在宅歯科医療連携室の相談状況と事例報告・他職種連携報告（サービス担当者会議）・周知活動・研修会活動について、道南圏域在宅歯科医療連携室の澤谷幸絵 相談員・水口 香 相談員から報告があった。

次に、協議事項として「お口の課題チェック票の有効活用と利便性向上」について、道南圏域在宅歯科医療連携室の澤谷幸絵 相談員・山田 祐 相談員から提案され、次に「医療・介護の連携推進のために、歯科に求めることや歯科治療への素朴な疑問」について、函館歯科医師会 岩井祐司 副会長より提出された。

各団体、各地域から多くの方に出席いただき、活発な意見交換の場となり、今後も「顔の見える関係」を継続していかなければと再確認した。（向山英明 記）



釧路

KUSHIRO

第26回 釧路会学術大会
日時：平成30年2月3日(土)
午後3時より

場所：釧路歯科医師会館 大講堂

標記学術大会が行われ、今年の講演者は8名だった。

①釧路労災病院歯科口腔外科 角 伸博 先生

『良性疾患との診断で歯科医院より紹介されたが病理診断が悪性腫瘍であった2例』

紹介患者に対し、病理診断してみると予想外の結果が出たため、慎重な診断と治療が必要であることを再認識した症例を発表。

②釧路赤十字病院歯科口腔外科 道念正樹 先生

『釧路市CKDネットワークにおける釧路歯科医師会の役割』

釧路会と多職種とのネットワークによりCKD患者を救うべく協力歯科医の育成



を呼び掛けた。

③釧路デンタルスタディークラブ 葛巻秀敏 先生

『治療を受け継いで』

父から受け継いだ患者を試行錯誤の中、患者の信頼を得ていく若き歯科医師の奮闘記を発表。

④臨床サロン 石本大輔 先生

『歯科恐怖症に対する取り組み』

歯科恐怖症に苦しむ患者の目線に立つて、歯科医師と患者が共に歩んでいくことの大切さを発表。

⑤光陽町歯科クリニック 小林みゆき 歯科衛生士

『歯科衛生士バージョンアップ』

食生活アドバイザーの資格を発揮しながら食育も兼ねた口腔ケア・実地指導を発表。

⑥北海道歯科衛生士会釧路支部 佐古真穂美 歯科衛生士

『「ブランクのある」歯科衛生士の復帰後の道筋』

十数年の時を乗り越え、地域貢献することで歯科衛生士としての自覚を取り戻した体験談を発表。

⑦テクニカルアートサプライ 清水 寛 歯科技工士

『カービング（歯形彫刻）によるトレーニングがCAD/CAM技工にもたらす効果～デジタル時代のアナログ技術～』



CAD/CAM冠を精巧に作製するにはカービング技術が必須であることを熱く語った。

⑧おかだ歯科 岡田実継 先生

『「歯科治療時にこんな落とし穴が・・・」～ 自戒の念を込めて～』

ヒヤリハットはすぐそこにあるとし、インシデントの減少がアクシデントを減らすことを示唆した。

釧路会会員によってはじまったこの学術大会。26年目の現在では、歯科技工士・歯科衛生士を含めた学術大会へとなった。

さまざまな視線からみた発表であったが、共感を持てる場面が多く、連携の大切さを再認識することができた学術大会であった。（上島崇聖 記）

平成29年度 釧路・根室圏域在宅歯科医療連携室推進委員会
日時：平成30年2月9日(金)
午後7時より
場所：釧路歯科医師会館 大講堂

設置から5年目を迎えて本年度から年一回の開催となった当連携室推進委員会



が開催された。

今年も釧路根室管内の他職種・専門職の団体代表の方々をお迎えして事業報告を行なった。スライドを使用した相談員の活動報告は、他職種にも分かりやすい内容で活発な意見交換、ご指導をいただくことができ、連携の深化を感じた。

また、釧路保健所 中山佳美 主任技師から今年度の要介護高齢者歯科保健対策事業についての事例報告もあった。

今後も連携室の充実のために、この委員会を大切にしていきたいと考えた。（伊藤隆志 記）



留萌

RUMOI

平成29年度 学術講演会
日時：平成30年3月10日(土)
午後3時より

場所：ホテルニューホワイトハウス 1階 会議室

今年度は「デジタルデンティストリーが歯科臨床を変える」と題し、講師にはCAD/CAM技術の研究開発、普及に尽力いただいた北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系デジタル歯科医学分野教授 疋田一洋 先生をお招きし、講演いただいた。

CAD/CAM研究の歴史から、昨年12月

に保険適用された大白歯のCAD/CAM冠の臨床における成功のポイント、そしてジルコニアの特性や治療上の注意点、最後にCAD/CAM技術の今後の展望など多岐にわたるテーマを詳細に説明していただいた。

症例選択、支台歯形成、接着方法など基本事項の徹底が大切であることを再認識させられた一方で、疋田先生の30年に及ぶCAD/CAM研究への弛まぬ努力をお聞きし、ただただ敬服するばかりであった。

質疑応答ののち、川上会長による閉会の辞で講演終了となったが、懇親会に移った後も質問や相談が続き、会員とっては内容の濃い有意義な一日となった。（岩屋浩洋 記）



登録はお済みですか？

『Do歯メール配信』\\ 会員募集中 //

『Do歯メールマガジン』に登録はお済みですか？現在の登録者数は1,000名を超えており、無料で登録できます。

会員の皆様に今すぐ知っていただきたい、速報ニュースを配信することもございますので、ぜひ登録を!!また、カラー写真やカラー文字を取れ入れて、見やすくポップに作成することを心掛けて配信しています。

なお、登録の際は、① 所属都市区歯会 ② 氏名(ふりがな)③ 生年月日 ④ 開業医院名または勤務先 ⑤ TEL ⑥ FAX ⑦ Eメールアドレスを下記問い合わせ先にFAXまたはE-mailでお申込みください。

毎月下旬に発行

・日常の臨床に役立つ情報
・道歯各会議の報告

号外も発行

・道歯主催の研修会告知
・お楽しみ情報
・緊急性を要するニュース

バックナンバー発行

・道歯 会員ホームページ (http://doushi.net/member/) にアクセスし、指定のIDとパスワードでログインすると、『Do歯メール配信』のバックナンバーをみるができます。

【お問合せ・連絡先】 北海道歯科医師会 事務局 広報担当
TEL 011-231-0945 FAX 011-271-7514
E-mail d-haisin@doushi.net